

卒業おめでとう!

～先生方からメッセージ～



3-1



編集発行
愛媛県立八幡浜高等学校
P T A 広 報 委 員 会



卒業に寄せて

芸術 (音楽) 濱邊 英夫

今日まで、語り尽くせないほど様々な事があり、時にはつらく投げ出したくなったこともあったと思いますが、よく頑張りました。この日を迎えたいと思えます。

コロナ禍からまだ抜け出せず、また変化が激しく厳しい社会情勢の中、その大きな流れに飲み込まれそうになります。その流れに押し流されていくたくましさや柔軟さが必要になります。流れるが、時代が変わっても、いつまでも変わらないものもあります。流れ動く多数の意見に惑わされず、自分の素直な気持ちに正直に生き、自分の信じた道に小さな歩みを重ねて進んでいってください。

卒業おめでとう。皆さんの将来が明るく希望に満ちたものでありますように。



3-2



卒業おめでとうになります。

保健体育 加洲 成人

『この道を行けばどうなるものか危ぶむなかれ 危ぶめば道はなし踏み出せば その一足が道となりその一足が道となる 迷わず行けば行けばわかるさ』アントニオ猪木さんの名言です。人は様々なことに悩み不安になります。不安で怖くて、踏み出せなければ、その先に道はありません。一步一步踏み出せば、そこに道ができていきます。振り返れば自分の人生という道ができています。勇気をもって一步一步、歩んでください。みなさんのことを応援しています。



3-3



卒業おめでとうございます。

芸術(美術) 井上 務

卒業後は進学や就職と道はそれぞれ異なると思いますが、自分の夢や目標に向かって少しでも近づけるよう、日々精進してください。みなさんの将来が幸多いことを心からお祈りしております。



3-4



誠実であれ

三学年主任 井上 生

何に対しても一生懸命頑張ることのできる素直で誠実な百八十一名との出会いは、私の教員生活において素敵な宝物となりました。

「やった」と自信を持って次の目標を設定し、これだけのことはください。次のステージでの活躍を祈っています。そして、何かあったときには、自分の悩みを打ち明け、何でも相談できる人と出会い、その出会いに感謝して、人生を楽しんでほしいと思います。さらに、何が正しい情報なのか、真実を見極める能力を身に付けてください。みなさんの将来が、充実した人生となることを願っています。



3-5

文化講演会

中矢匡さんをお招きし、「地球の上に生きる」八十か国で出会った人々」をテーマに講演をしていただきました。中矢さんは国際理解コーディネーターとして講演活動をされており、今まで訪れた八十か国の様子を熱く語ってくださいました。特にカンボジアやインドなど、海外で起こっている諸問題について、お話ししていただき充実した時間となりました。



文化祭に参加して

菊池 紀子

「私、ウタちゃんやることになった! どうしよう!」娘が、少したけ困り顔で報告してくれた日のことを、よく覚えています。文化祭の生徒会の企画で、アニメのONE PEACEをやることになり、その中のUTAというキャラクターを頼まれ、歌も歌うというのです。その日から、衣装や構成について、事あるごとに決まった内容を話してくれる娘は、とても楽しそうで、暇さえあれば歌や振り付けの練習をしていました。

本番では、緊張している様子でしたが、声援を受け、のびのびと歌っている娘をとて誇らしく思いました。娘、たと気づいていた友だちには、上手だったと褒めていただき、自分のこと以上に嬉しく思いました。

また、ダンス・バトン部のステージでは、大きく順位を上げた県大会での演目をみんなに見てもらうことができ、よい思い出となりました。

コロナ禍で、いろいろなことを諦めたり、我慢しなければならなかったりしていますが、子どもたちはそのような状況でもできることを精一杯行い、楽しみ、成長していると強く感じました。先生方に支えられ、多くの仲間と共にこの日を迎えられることに、深く感謝いたします。



文化祭

11月3日(木)





何事も経験

写真部 保護者 酒井 貴夫

中学では吹奏楽部の部長をしていた娘が、高校では写真部に入りました。集団で創る吹奏楽部と違い、写真は個の感性を大切にする活動だと思っていたので、少し意外に感じました。カメラを買う際、どれを買おうかと考える娘の嬉しそうな表情を見て、私まで何かワクワクした気持ちになりました。

春は桜を、夏は海を、秋は月夜を、コロナ禍の制限の中で、シャッターを切っていました。移り行く季節を感じながら作品が撮れたと思います。ご指導くださった先生方、共に活動してくれた部員の皆様のご協力で、部長を務めることができました。ありがとうございます。

新しいものに触れ、新たな経験・知識を得ることは、と



でも大事なことで、これからの人生においても、新しいことにチャレンジする気持ちをもつてほしいと思っています。

やさしさに包まれて...

コーラス部 保護者 松本 雅代

三年半前、サマーフェスタで一年生四名のコーラス部の歌声を聞いた。隣にいた娘が、「コーラス部に入りたい」と呟いた。入学して間もなく、コロナ禍による休校で思うような高校生活を送ることなく、希望も持てずにいたその時に、のびやかに、楽しそうにステージで歌う友達のように心が動いた。快くコーラス部へ送り出して下さった先生方へ感謝しています。先輩のいない活動は、時には不安や迷いもあつただろうと想像します。しかし、濱邊先生と井上唯先生の愛情溢れるご指導のおかげで、ステージに立つ子どもたちは、どんな時も堂々と前を向き、やさしさと温か



さを会場の人たちの心に届けていると感じられました。三年生が引退して二年生二名となり、活動の存続を心配していましたが、熱心な勧誘の甲斐あって、部員も増えてきています。これからも、八高にやさしく温かい歌声が響き続けることを願っています。

ありがとう、自然科学部

自然科学部 保護者 宮瀬 由美

中学時代の息子の部活動は、成長痛をこらえながらの慢性的な痛みをこらえながらのものでした。なので「高校では運動部には入らん」と聞いた時には、あんなに痛がる顔を見なくてすむ……と少しホッとしたものです。入部したものの何を部なのか私にはよく分かりませんでした。が、時折息子の話す「川に魚を捕りに行った」とか「文化祭で魚の骨格標本をつくるんよ」とか……が、とにかく楽しそうでした。そんな様子を見ていると、川や山でアレコレ作って遊んでいた小さい子どもの頃の姿とダブって微笑ましく、これが息子の本質なのかと思ったりしました。自然科学部が思い出させてくれた楽しさを忘れずに、これからもっと広い世界の中で生き生きと笑いっぱいで過ごしてほしい……それが私の願いです。



楽しい高校生活をありがとう、自然科学部。

最響メンバーに感謝

吹奏楽部 保護者 清水 直美

中学校より引き続き入部しました。練習時間も増え、学業と部活動の両立も大変だったと思います。入学してからコロナウイルス感染拡大で、多くの方々に演奏を聴いてもらえる機会が減り、とても残念に思いました。限られた中でこれまで頑張ってきた子供たちに拍手を送りたいと思います。昨年度の秋に部長という大役を務めることになり、親としては果たして務まるのだろうか心配していました。最



初頃は大変そうでしたが、少しずつ慣れ、ちよつと安心しました。この経験は娘にとつて貴重なものであり、これからの人生で必ず役に立つてくれることと思います。

ご指導していただいた濱邊先生、優しくも厳しく接してくれた先輩、苦楽を共にした部員のみなさんのおかげです。本当にありがとうございます。

茶道部に感謝を込めて

日本文化部(茶道) 保護者 鳥生 陽子

高校に入学し、どの部活動に入ろうかと悩みながら、大好きなお茶の世界に入った娘。入学した時にはすでにコロナ感染症拡大防止により活動が

縮小され、親子共に楽しみにしていた夏のお茶会、文化祭でのお茶会もなく、文化部の活躍の場を全く味わえなかつた三年間となりました。唯一よかつたことは、先生方、先輩方、仲間たちと定期的に行われる部活動の時間です。お作法を学ぶことはもちろんのこと、毎回美味しいお茶菓子とともに、先輩方から学校生活や受験について教えてもらつたり、女子トークもしたりと、楽しいひと時を過ごすことができましたよ。先生方のご指導のおかげで、免許状を取得することができ、茶道を続けてきたことが自分の強みとなり、今後の生活に拡がりを作るきっかけになつたと思います。最後に、外部講師の山下先生、顧問の塩崎先生、三年間大変お世話になりました。心より感謝申し上げます。このすばらしい日本文化部にたくさんの方が入部してくれることを今後も祈っています。



活動に感謝

書道部 保護者 高岡 裕司



彼女が選んだ部活動は書道部。運動部や他の文化部も選択肢にありましたが、小学校の時に習字を習っていたため何とかなるかなと思っていました。

活動はサマーフェスタ、総合文化祭、県展、市展への参加。一年生の時サマーフェスタに家族で初めて出掛け展示を見た時「皆さんすごく上手だね!」と感動した事を思い出します。

コロナ禍で運動部や他の文化部ほど活動に制限はなかつたかと思いますが、顧問の先生方のご指導、ご配慮、先輩後輩の部員のご協力により無事に活動ができました事に感謝申し上げます。

最後に、今年度開通予定の大洲・八幡浜自動車道「八幡浜道路(郷一大平)」の「萩森高架橋」の文字を書かせて頂きもう一つ思い出を残すことができました。誠にありがとうございました。



考えて踏み出すこと IAC・VYS 保護者 山内 京子

「IAC・VYS部」は、ポランティアと国際交流をする部活動です。特に力を入れていた活動が「デイベート」です。あらかじめ与えられたテーマについて、一チーム四人で賛成論と反対論を英語で考え、他チームと試合(討論)を行います。コロナ禍では、オンラインでの試合になることも多くありました。

春先の「第四回ドルメイン世界マーマレードアワード&フェスティバル日本大会」では、実行委員会の方にお願ひし、部活動の仲間と、金賞マーマレードなどの販売を手伝うボランティアをさせていただきました。コロナ禍で機会がなかったボランティアができて、喜んでいただいたのを覚えています。



部活動の経験から学んだことや支え合つた仲間、ご指導いただいた森口先生への感謝の気持ち忘れずに、これからも自分らしく歩んでほしいと思います。

お世話になつた皆様、ありがとうございました。

美術部に感謝

美術部 保護者 松上 礼記

何かしなさいといわれれば、洪々それをやつていた娘が、唯一自分から進んでやつていたのが絵を描くことだつたように思ひます。そんな娘が美術部に入り、初めて描き上げた作品を見たとき、「ああ、娘らしいな。」と感じました。何よりも驚いたのが、美術部の生徒の個性ある、エネルギー溢れる作品の数々でした。視点、捉え方、表現の仕方に、それ

それぞれの個性や特徴を感じたからです。これも、個に応じた指導してくださった井上務先生の力添えがあったからこそだと感じました。一度身に付けたデッサン力・ものの見方が、時代が変わっても色褪せることなく、これからの人生を豊かで彩のあるものにしてくれるものと信じています。

指導していただいた先生方、ともに活動をした部員のみなさん、本当にありがとうございました。



縁の下の力持ち

放送部
保護者 菊池 恵子

放送部に入部して、慣れない事ばかりで皆に迷惑をかけていないか親としてハラハラして見ておりました。サマー



フェスタの司会、体育祭の実況、コンクールへの出場などアナウンスを中心にがんばっていました。コンクールの為の取材をする時にアポ取りが上手くいかず時間がかかった事。他の部員とのコミュニケーションが難しかった事。楽しい事ばかりではなかったと思います。全校集会の機材の準備など放送部の活動は縁の下の力持ちです。でも、その中で社会に出た時に役に立つ事をたくさん学べたと思います。コロナ禍で、なかなか活躍の姿を見る事は少なかったですが、いろいろな事を経験させて頂いてありがたい気持ちです。

三年間ご指導頂きました先生方、部員の皆さんには本当に感謝しかありません。本当にありがとうございました。

栃木国体に参加して

水泳部 三年 岡本 大翔

私は栃木県で開催された「いちご一会とちぎ国体」に愛媛県の代表として出場しました。私は、中学生の頃から国体に出場することを目標としていました。出場が決まってからも、決勝に残り、愛媛県チームに貢献することを目標に、今まで以上に練習に取り組みました。

しかし、よい結果を残すことができず、自己ベストも更新できませんでした。とても悔しく、チームのみんなに申し訳ない気持ちでいっぱいでした。

栃木国体に参加して

陸上競技部 三年 後藤 夏凜

「全国大会入賞」これは、昨年私が掲げた目標です。しかし、新型コロナウイルスの影響で多くの制限を受けた練習となりました。最終シーズンのに向けて、二年生最後の冬季練習も例年と比べて満足のいくものにはなりませんでしたが、実際、シーズンに入ってから記録は、自身の記録も更新できず、全国入賞どころか、全国大会出場も難しいのではないかと不安から、走ることが怖くなっていました。

そのような中、迎えた初めての国体で、私は三百メートル

した。でも、全国の舞台を経験し、レベルの高さを実感できました。全国レベルの選手と一緒に泳ぐことができたこと、オリンピック選手のレースを間近で見ることができたことは、私にとって貴重な経験となりました。

私は、国体を通して、多くのことを学びました。愛媛県の選手として緊張感を持って参加することが、仲間の大切さを学ぶことができました。このように水泳ができるのも、多くの人に支えられているからだと改めて気づくことができました。

私の競泳人生最後のレースが国体という全国の舞台であったことを誇りに思います。今

いちご一会とちぎ国体

ルに出場しました。心配や不安な気持ちでいっぱいなのに先生は、「お前なら大丈夫。調子なんか気にせず、楽しんで走れ！」と言ってくれました。レース中も、一番近くの席で、ずっと私の名前を呼び、応援してくれました。そのおかげで、緊張がほぐれ、自信に繋がりました。結果としては、全国大会入賞という目標を果たすことはできませんでしたが、今までで一番楽しんでレースに臨むことができました。新たな課題やレベルの高さを実感できた大会となりました。

このように、高校生活の中で、私が目標に向かっていた走り続けることができたのは、先生、家族、ともに練習をして

までの努力が報われた結果だと、感謝の気持ちでいっぱいでした。本当にありがとうございました。



きた仲間、みんなの支えがあったからだと思います。大学進学後も陸上競技を続けます。まずは、自己記録を更新し、支えてくださった先生方によい報告ができるように、謙虚に陸上競技と向き合っていきます。

私の高校陸上生活は、最高と言えるものになりました。本当にありがとうございました。



全国選抜大会

五位入賞
弓部 二年 井上 琴葉



昨年の十一月、全国大会出場を決める県選抜大会に参加した私たちは、予選突破を目標としていました。県選抜大会試合当日、試合を重ねるごとに、お互いを力バールし合うことができ、県優勝！そして、熊本で行われる全国選抜大会への出場権を得ました。八高弓道部は全国大会に出場するのは、二十一年ぶり、誰も経験したことがない、未知の領域でした。そのため、大会前の練習では、調子が上がらず、よい雰囲気をつくることができない状態が続き、大会に参加するのが不安でした。

私たちのチームの長所は、どのような状況であっても団結力があること。そのチームワークで全国大会を乗り切ることができました。私たちは、常にお互いのことを考え、行動できるチームです。それぞれが支え合い、励まし合い、楽しく試合をすることができました。全国大会の予選では、

秋季県展愛媛県美術会大賞

美術部 三年 二宮 瑞希

私は「瀬戸の森」という作品で洋画部門の美術会大賞をいただきました。私にとって高校生活最後の作品です。また同時に、最初で最後の風景画の作品でした。そのため、人物画を描く時との違いに戸惑ったり、どこを重点的に描けばいいのか悩んだりしましたが、井上先生のご指導の下、納得のいく仕上がりました。

この作品では、強い光と濃い影が一枚の絵の中に存在しているのが、互いに相殺しないよう表現するのが、とても難しかったです。少しずつバランスを見ながら、何度も何度も描き直しました。しかし、そうしている段階で何が正解か分からなくなっていました。途中で挫けそうになりました。そんな時は周りで頑張っている仲間を見渡し、再度気合いを入れていました。またこの絵は調度光が差し込み、全体的に淡く赤色や青色がかかっています。その鮮やかさを表現するため、はじめはアクリル絵の具で描きました。しかし、それだけではどうしても軽い印象を与えてしまうので、上から油絵の具で描き深みを出しました。



私は部活動を通して、忍耐力を身に付けることができ、また諦めないことの大切さを実感しました。的確な指導の下、導いてくださった井上先生、いつも支えてくれた家族、そして互いに切磋琢磨し、励まし合った仲間たちのお陰で心に残る、充実した三年間となりました。本当にありがとうございます。ごさいます。



文芸部門(詩) 優秀賞

文芸・新聞部 二年 宇都宮りょう

今回、賞をいただいた詩「今日の服」は亡くなってしまった祖父との思い出をテーマに創作しました。最初はテーマ自体も全く違うもので書き進めていたが、詩を書くのは初めてだったので伝えたい事がまとまらず、何度も手が止まってしまいました。ちょうどその頃、祖父が亡くなり、祖父への恩返しも込めて創作しようと考え、テーマが決まりました。祖父との思い出を振り返りながら表現すると、不思議と次々に自分の伝えたいことが言葉として生まれ

一年生の時に多くの賞状を持つて新聞に掲載している人たちを見て、全商検定全科目合格を目標に取り組んできました。十二月に実施された会計実務検定に合格し、全科目取得することができて非常に嬉しく思っています。そんな私ですが、実は商業科特有の専門科目には苦手意識があり、同じ検定に何度も落ちてしまい諦めそうになることもありましたが、ここぞと簡単に諦めてしまわず、いつも熱心に指導してくださる先生方に申し訳ないと思い、自分なりに工夫し

十二月に財務諸表分析検定に合格し、念願の全九種目一級を取得することができました。部活動と検定勉強との両立で逃げ出したくなる時もありましたが、毎日コツコツと頑張ってきたよかったです。私がいま全九種目一級合格を目指すようになったきっかけは、一年生の時に全商英語検定一級に合格し、先生から「全種目合格を目指してみないか」と声をかけてもらったことです。しかし、その九種目の一つである珠算検定は、そろばんを習ったことのない私にとって難関でした。そんな時、本校

三年 山口 夏実

三年 坂口 琉久

詩として納得のいく作品にまとめることができました。今回、愛媛県高等学校総合文化祭で優秀賞をいただくことができ、大変嬉しく思います。また、家族や先生方からも作品の感想を沢山いただき、感謝の気持ちでいっぱいです。これからも日々、頑張りたいです。



て苦手科目にも挑戦するようにしました。授業に集中して取り組み、毎日復習をするなど当たり前のことですが、地道にコツコツ頑張ることで一つ一つ合格することができました。九種目一級を達成できたのは、遅くまで熱心に指導してくださった先生方やクラスメイト、家族の支えがあったからだと思います。大学でも感謝の気持ちを忘れず、自分の夢に向かって努力し続けたいと思います。



商業科出身の母やクラスメイトの友達が練習に付き合ってくれました。結果、見事に合格することができて嬉しかったです。私がこうして目標を達成できたのは、先生方のご尽力や家族の精神的な支えのおかげです。一つ一つ資格を取得していくとともに、自分の自信となっていました。春から就職し社会人となりますが、これからもいろいろな資格に挑戦していきたいです。

愛媛県大会十六連覇、四大会連続の全国大会出場!

八幡浜の地域活性化

商業研究部 三年 古田 彩華

私たち商業研究部は、「八幡浜の地域活性化」を目標に日々活動しています。今年度は、「未来から現在を考える農業と漁業」というテーマで、昨年度商品化した「柑橘香る真鯛の和風パスタソース」の改良に加え、「柑橘香る真鯛のクリームパスタソース」の開発を行いました。

八月に行われた県大会では、今までの練習の成果を出し切り、十六連覇をすることができ、とても嬉しかったです。四国大会では優秀賞(二位)をいただき、全国大会の出場権を得ることができました。昨年は四国大会・全国大会ともにリモート開催でした。その悔しさをバネに、部員全員で練習を重ねてきました。何度も壁にぶつかりましたが、仲間とともに乗り越えてきました。全国大会では、他校の発表に圧倒され、入賞とはなりませんでしたが、自分たちの活動をしっかりと伝えることができたと思います。

また他校の発表を聞いて、自分たちの活動にも活かせる取り組みを発見することができ、とても貴重な経験になりました。八幡浜市は少子高齢化が進み、様々な問題を抱えているのが現状です。自分たちの活動によって多くの方に少しでも八幡浜の魅力が伝われば嬉しく思います。これからも八幡浜のために自分たちができることを考え、八幡浜の地域活性化につながる活動を続けていきます。

県駅伝十六連覇

継心

陸上競技部 三年 山本 瑚春

十一月六日、今年も八高の禰が一番でゴールへと帰ってきました。常勝の八幡浜が十六連覇達成。しかし、私たちにとってこの勝利は、決して当たり前ではありませんでした。「十六年間で最弱」。そんな状態から今年のチームはスタートしました。内外から連覇を危ぶむ声が聞こえてきました。私たちの代で連覇が終るかもわからない。何か状況を変えなければ。そんな思いで、春から「十六連覇ノート」という交換日誌を回し始

めました。しかし、なかなか成果は現れず、思うように走れない日々が続きました。練習では集団から遅れる人が相次ぎ、心も力もバラバラの状態でした。駅伝が近づいた夏、生徒間でのミーティングを始めました。直接想いを伝え合うことで、バラバラだった意識がまとまり始めました。反省ばかりが並んでいったノートには、「勝ちたい」という思いが綴られるようになり、練習が競争へと変わりました。できなかつたことがどんどんできるようになっていきました。

そして、秋。十六連覇という一つの目標に向かって努力

を重ねる過程の中で、本当の意味で仲間と心がつながり、チームは一つになりました。

十一月六日。アンカーが競技場に帰ってきたとき、メンバー全員の目から涙が溢れました。苦しかった日々を乗り越え、全員で掴んだ勝利。仲間が居たから、立ち止まらずに走り続けられました。私たちは努力の過程の中で、代々伝わる「継心」の教えの意味を知りました。

「十六年間で最弱」だった私たちがここまで変化できたのは、先生のご指導と多くの方々との出会いがあったからです。この出会いに感謝し、これから先も「継心」の伝統が続いていくことを願います。『努力には夢がある』



編集後記

八高PTA会報第八十号を読んでいたいただきありがとうございます。

コロナ禍という困難な状況のなか、それを乗り越えようと奮闘し、立ち向かっている子どもたちの成長を感じてもらえたら嬉しいですね。活動中止や自粛という生活も少しずつ改善されています。まだまだ不安はありますが、思いっきり活動できる日常が戻ることを願うばかりです。最後になりますが、原稿執筆や編集作業にご協力、ご尽力いただいた皆様、本当にありがとうございます。

〔広報副委員長 菊池久美子〕